

平成25年度

山形県公立高等学校入学者  
選抜学力検査成績概況

平成25年6月

山形県教育委員会



## <目 次>

### 国 語

1 結果の考察	1
2 今後の課題（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

### 社 会

1 結果の考察	3
2 今後の課題（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

### 数 学

1 結果の考察	5
2 今後の課題（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

### 理 科

1 結果の考察	7
2 今後の課題（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

### 英 語

1 結果の考察	9
2 今後の課題（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

### 資 料

平成25年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者数・合格者数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

# 国語

## 1 結果の考察

□は、文学的な文章について、基本的な読む能力を中心に、書く能力や、言葉の特徴やきまりに関する事項の基礎的な知識・理解をみることをねらいとした。問三、問六の正答率がともに8割を超えていて、文章の構成や展開の仕方をとらえる力や登場人物の言動の意味をとらえる力については良好である。また、問四、問五の正答率がともに高く、文脈に即して登場人物の心情をとらえる力についても比較的良好である。一方で、文章における描写の効果をとらえ表現する力をみる問七の正答率が低い。文学的な文章を扱う際には、内容を理解する学習だけではなく、描写の効果を考えたり表現の仕方について評価したりする学習にも取り組ませたい。

□は、説明的な文章について、基本的な読む能力を中心に、書く能力や、言葉の特徴やきまりに関する事項の基礎的な知識・理解をみることをねらいとした。問四、問七の正答率がともに約5割であり、文章の展開を確かめながら要旨をとらえる力にやや課題がある。また、問六の正答率が低いことから、今後は、語句の辞書的な意味を踏まえた上で文脈の中における意味を的確にとらえる学習に積極的に取り組ませる必要がある。

□は、親しみやすい古典の文章について、基本的な読む能力をみることを主なねらいとした。古典を学習する際には、文章に表れたものの見方や考え方を理解し、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことが大切であるが、問五(2)の結果をみる限り、それが十分に指導されているとは言い難い。「伝統的な言語文化」の指導について一層の工夫を求めたい。

□の問一は、「学年別漢字配当表」の漢字を書く力をみる設問である。問二の選択問題のうち、Aは、話し言葉と書き言葉との違いを理解し、場面に応じた適切な語句で表現する力、Bは、手紙の形式を理解し、適切に表現する力をみる設問である。A、Bで求められている力は社会生活に必要な国語の能力であり、これにかかわる学習を日常的に取り組ませしていきたい。

□の作文は、短歌に詠まれている情景や心情をとらえ表現する力や、短歌についての自分の考えを短歌の言葉を取り上げて的確に表現する力をみることをねらいとした。久しぶりの詩歌についての出題にもかかわらず、7割を超える受検者が9点以上得点していて、日ごろの学習の成果が表れたものと評価できる。

## 2 今後の課題（授業改善のポイント）

### (1) 国語を適切に表現し、正確に理解する能力を高める言語活動を

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の、どの領域の授業においても、様々な学習活動による基礎的・基本的な技能の向上を図りながら、伝える内容を適切に表現する能力や、他者が伝えたい内容を正確に理解する能力が一層養われるような言語活動を行いたい。

### (2) 「付けたい力」の定着を図る授業計画と評価の工夫を

単元の重点を明確にした年間指導計画を作成するとともに、各単元において「付けたい力」が定着したかどうかを具体的な評価方法に基づいて適切に評価し、評価結果に基づいて指導の改善につなげたい。

### (3) 日常的な読書活動につながるような授業づくりを

読書意欲を高め、日常の読書活動につながるような授業づくりを行いたい。

問	正 答	配 点	備 考
一	a ねんれい 99.7      b おた(やかな) 97.1 イ 90.4 小学三年生 84.5 (例) 自分は食べたことがない『ひらかわ』のたいやきを、「お母さん」は食べたことがあること。 76.0 エ 76.0 ウ 88.0 (例) 春の情景を描くことにより、一人だけでたいやきを食べた母と娘が和やかな雰囲気に包まれていることを印象的に伝える効果。	26	問七 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
	a とまと(つて) 99.1      b おおきよう 19.3 ② ③ 40.9 (例) タイタスから笑いをういて遊びに誘われ、一緒に遊んだ体験。 73.7 ウ 51.5 ア 66.7 (例) 対等かつ積極的にしかかわる傾向を著しくする 39.5 (例) 謙譲の態度を取り、敵意がないことを示す「サルの笑い」の特徴に加えて、相手と楽しさを共有しようという遊びの笑いの積極的な意味も含む笑い。	27	
二	たい 77.8 ① ア 89.5      ② オ 67.0 (例) 心が正直で、他人のためによい行い 64.6 エ 55.3 (1) 主にはくどする 45.6 (2) (例) 教室の鉛筆けずりのかすがいっぱいになりかけているので、紙に包んで捨てておく。 54.1	16	問五(2) 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
	1 札 82.7      2 慣(れる) 75.1      3 鉱 脈 57.9 4 標 識 59.1      5 系 統 58.2 《選択問題》 A (例) 開始時刻は四時ですので、遅れずに集まってください。 95.7 B (例) 新緑がまぶしい季節となりました。 56.0 A選択 81.9 B選択 14.6 無答 3.5 選択率	13	問一 A、B 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
三	(1) 内容 ○ 自分が選んだ短歌から読み取った情景や心情が、明確に述べられているか。 ○ 短歌を選んだ理由や自分が感じた短歌のよさが、短歌の言葉を取り上げて明確に述べられているか。 (2) 構想・叙述 ○ 二段落で構成されており、第一段落には、自分が読み取った情景や心情が述べられ、第二段落には、短歌を選んだ理由や自分が感じたよさが、短歌の言葉を取り上げて述べられているか。 ○ 文章の組み立てや展開が適切で、全体のまとまりがあるか。 ○ 叙述の仕方が的確で、工夫がみられるか。 (3) 書写・表記 ○ 文字が正しく、整っており、表記が適切であるか。	18	◇ 採点基準は、【評価の観点】を踏まえ、各学校において適切に設定すること。 ◇ 採点は2名以上で行い、それぞれ18点満点とすること。 ◇ 採点者は全答案を通して採点し、評価・評点のゆれがないよう留意すること。 ◇ 評点は、各採点者による点数を平均(端数切り上げ)したものとすること。
	14点~18点 14.3 9点~13点 60.8 5点~8点 19.3 1点~4点 3.8	合計 100	

(注意) 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 社 会

## 1 結果の考察

①は、世界の国々の位置関係をとらえる力、自然条件と関連付けて世界の人々の生活の様子をとらえる力、世界の国々について資料を読み取り思考・判断する力をみることをねらいとした。時差や各国の産業の特色に関する問いなど、基礎的・基本的な事項の定着をみる設問の正答率は約7～8割と高かった。一方、資料から読み取った数値を計算した上で思考する問題での正答率が低かった。今後は、資料から読み取った数値をもとに考察し、地理的事象を多角的にとらえさせる指導を充実させたい。

②は、日本の地域構成、都道府県の位置などについての知識・理解と、都道府県についての資料を読み取り、思考・判断する力をみることをねらいとした。資料を読み取り、各県の特色をつかむ問題での正答率は5～6割であった。また、地形図を用いた基本的な技能を問う設問での正答率も良好であった。地理的事象に対する関心を高め、資料を活用して日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる指導を継続したい。

③は、歴史の舞台となった主な日本の都市をテーマに、古代から近世までの日本の歴史の大きな流れや、各時代の政治、社会、文化の特色をとらえる力をみることをねらいとした。基本的な知識・理解を問う設問の正答率は高かったが、江戸時代の三大改革の共通点に関する設問での正答率は低かった。各時代を代表する歴史的事象や、時代の転換点となった出来事についての意味・意義を学ぶことを通じて、各時代の特色をとらえさせ、時代を大観させる指導をより一層心掛けたい。

④は、交通や産業の発展を中心とした、日本の近現代史の大きな流れや、各時代の政治と社会の特色をとらえる力をみることをねらいとした。基本的な歴史的事項を問う設問での正答率は高く、おおむね良好な成績であった。身近な地域の歴史的事象と、日本全体や世界の歴史とのかかわりについて留意しながら指導したい。

⑤は、民主政治のしくみに対する関心や選挙制度についての基本的な事項の知識・理解などをみることをねらいとした。三権相互のかかわりや一票の格差などに関する設問では、約6～7割の正答率であり、社会的事象に対する関心を育む授業がなされていることがうかがえた。一方で「理解していることを十分に表現できていない」という声も高等学校から寄せられ、言語活動を通して表現力を高める指導を一層充実させたい。

⑥は、身近な消費生活と経済活動に対する関心や、社会的事象について、自分の考えを適切に表現する力などをみることをねらいとした。日本が国際社会で果たすべき役割に関する設問での正答率は約7割と、おおむね良好であった。日ごろから、持続可能な社会を形成するための公民的資質を培う視点での授業が行われていることがうかがわれた。また、中学校からは、「普段から自分の言葉でまとめさせる指導の必要性」について意見が寄せられた。表現する力の一層の充実を実現する指導を工夫したい。

## 2 今後の課題（授業改善のポイント）

### (1) 社会の形成に積極的に参画する態度を育成するための指導を

社会的な課題を主題に設定し、自ら学び自ら考える力を育成することを目指した指導を充実させたい。そのために、身近な地域の社会的事象を積極的に取り上げるなどし、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育む学習を充実させたい。

### (2) 思考力・判断力・表現力を高める言語活動の一層の充実を

諸資料から得た情報や社会的事象について、考える視点を明確にさせながら、相違点や共通点に気付かせ、根拠をもとに自分の考えをまとめられるよう指導したい。

問	正答	配点	備考	
1	問1 ウ (例) 乾燥していて雨が少ない気候だから。	80.9 71.7	16	問3 順序は問わない。全部できて正答とする。 問4 番号と県名が両方でできて正答とする。 問5(1)
	問2	(1) (日本) オ (C国) イ (日本) 82.9 (C国) 50.9		
	問3	(2) カナダ 17.9 (3) 原油 69.1		
	問4	(Y) B (国) (Z) D (国) (Y) 51.2 (Z) 35.3		
	問5	(例) 日本国内での雇用が減少すること。 62.1		
2	問1 信濃川	78.0	19	【グラフ】 観光客数(万人) 産業別人口割合(%) 
	問2	フォッサマグナ 63.3		
	問3	ア, イ, オ 41.6		
	問4	(C) (番号) ⑥ (県名) 山梨 (県) (C) 53.8 (F) (番号) ⑤ (県名) 静岡 (県) (F) 60.1		
	問5	(1) (備考欄に示す。) 91.3 (2) (例) 観光客数の増加により、第3次産業の人口割合が増加した。 72.8		
	問6	伝統工芸 68.8		
	問7	(1) ア 59.8 (2) ウ 82.7 (3) (例) R付近では、平地が水田に利用され、S付近では、斜面が果樹園に利用されている。 63.3		
3	問1	(1) 平城京 72.8 (2) ウ 39.9	17	問3(1) 「将軍から新しい領地をあたえられること。」でもよい。 問3(2) 全部できて正答とする。
	問2	(1) 桓武天皇 37.6 (2) (例) 阿弥陀仏にすがって極楽往生することを願う信仰。 68.2		
	問3	(1) (例) 将軍から領地の支配権を認められること。 62.7 (2) エ → ウ → ア → イ 22.0		
	問4	(1) 参勤交代 72.0 (2) (例) 節約をすすめた 7.2		
4	問1	イ 46.0	18	問3 「紡績業」などでもよい。 問4 全部できて正答とする。 問7 「オリンピック東京大会」でもよい。
	問2	(1) 廃藩置県 67.1 (2) (例) 中央集権国家をつくること。 19.9		
	問3	製糸業 52.9		
	問4	ウ → イ → エ → ア 19.9		
	問5	(例) 女性の権利を拡大すること。 80.9		
	問6	(例) 財閥が解体されたこと。 33.5		
	問7	東京オリンピック 83.8		
5	問1	(1) 国民審査 61.6 (2) ア, ウ 82.7	15	問1(2) 順序は問わない。 問3(1) X「高く」、Y「低く」などでもよい。 X, Yは両方でできて正答とする。
	問2	(1) (例) 政党に投票し、得票に応じて各政党に議席が配分される制度。 44.2 (2) 請願権 11.8		
	問3	(1) (X) 重く (Y) 軽く (Z) 平等 (X, Y) 73.7 (Z) 55.8 (2) (例) 最高裁判所は、法律が憲法に違反していないかを最終的に判断する権限をもっているから。 48.3		
6	問1	(例) ごみの発生を減らす 35.3	15	問1 「無駄な消費をなくす」でもよい。
	問2	労働基準法 68.2		
	問3	(例) 公債は借金であり、将来の世代が、税負担によって返済しなければならないから。 66.2		
	問4	ウ 38.4		
	問5	難民 80.6		
	問6	《選択問題》 D (例) 発展途上国の経済発展を支援するために、政府開発援助による技術提供を行う。 67.8 E (例) 唯一の被爆国として平和の大切さをよびかけ、紛争地域の平和維持活動に協力する。 72.6		
		合計 100	選択率 D 43.1 E 50.6 無答率 6.4	

[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 数 学

## 1 結果の考察

①は、各学年で扱う内容のうち、特に基礎・基本を重視した問題を出題した。1の計算問題は、例年と同様に高い正答率であった。特に1(4)の正答率が高くなった。2の因数分解の問題や、3の二次方程式の解の公式を使う問題では、計算途中の不完全な解答が目立ったという報告が寄せられた。4は、平面図形の基本性質の理解をみることをねらいとしたが、正答率は55.6%であった。6は、作図が途中なものを完成させる問題を出題した。様々な作図方法が見られた一方で、ひし形の理解が不十分であるとの指摘が高等学校から寄せられた。定理や公式といった基礎・基本はもちろん、数学で用いる用語をしっかりと理解することも、基礎・基本の一つである。授業において、既習事項を積極的に活用し思考することで、基礎・基本の定着を図りたい。

②は、事象を様々な角度から分析し、考察・処理する問題を中心に問題を出題した。1の文字を用いた式の問題では、(2)の正答率が35.4%である。数量の関係や法則などを式に表現することができなかつたためと思われる。2の2次関数の問題は、(2)の不等号を使って表す問題の正答率が低い。不等号の使い方や数量の大小関係について、確実な定着を心掛けたい。3は、判断の根拠を明らかにし筋道立てて説明する力をみることをねらいとした。論理的に不十分な解答はあったものの、なんとか伝えようとする意欲が表れていたとの報告もあった。4は、数量の関係を式に表現する力と方程式を解く力をみることをねらいとした。今年度は数量を文字で表すことを選択し記述させたが、昨年度に引き続き、立式までが不十分なものが多かったという報告が寄せられた。言葉や数・式・図・表・グラフなどを適切に用いて的確に表現する学習機会を大切にしたい。

③は、身近な事象とグラフを関連付けて考察する問題を出題した。1イの正答率が36.3%、3(1)の正答率が30.4%であった。日常用いられる単位の意味を理解した上で計算することも数学における基礎・基本であることを再認識したい。また、3(1)が正解でありながら、(2)が不正解というケースが見られた。グラフの交点が何を表しているかといったグラフの読み取りができていると思われ。式、グラフを相互に関連付ける力、関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する力をさらに高めたい。

④は、空間図形の問題で、図形的基本的な性質の理解と、論理的に説明する力をみることをねらいとした。1の正答率は87.7%と高く、理解が定着している。2(2)の証明は、不十分な論述が目立ったとの報告が寄せられた。様々な視点から図形を考察し、結論に至るまでの過程を論理的に記述する力を身に付けさせたい。

## 2 今後の課題（授業改善のポイント）

- (1) 基礎・基本について、意味理解が伴った確実な定着を身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を明確にし、発問の仕方、説明の仕方、まとめや振り返りのさせ方等を工夫して、生徒一人一人が意味を理解し納得できる指導を心掛けたい。
- (2) 数学的な表現力を質的に高め、思考力の育成を根拠を明らかにして筋道立てて説明し合ったり、既習の数学を活用する手順を的確にまとめて、表現し合うことで、数学的な表現力を質的に高め、より合理的、論理的な考えに気付かせる。このような活動を通して数学的な思考力・表現力を身に付けさせたい。
- (3) 数学のよさを知り、意欲的に取り組む態度の育成を数学を活用して能率的に処理できること、簡潔に表現できることを知り、意欲的に問題解決に取り組む態度を養いたい。そのために、吟味した課題を準備し、生徒一人一人に応じた適切な指導と助言を心掛けたい。



問	正 答	配 点	備 考						
1	<p>(1) 6 96.2 (2) <math>-\frac{7}{10}</math> 90.1 (3) <math>2y-5x</math> 89.8 (4) <math>\sqrt{5}</math> 94.4</p> <p>2 <math>3(x+3)(x-3)</math> 75.1</p> <p>3 <math>x=-1, x=\frac{1}{2}</math> 46.5</p> <p>4 <math>99^\circ</math> 55.6</p> <p>5 <math>\frac{1}{2}</math> 75.1</p> <p>6 (作図例は右に示す。) 69.6</p>	32	1 計算式は略。						
2	<p>1 (1) 44 77.8</p> <p>(2) 37 (枚) 35.4</p> <p>2 (1) <math>0 \leq y \leq 4</math> 81.6</p> <p>(2) <math>\frac{1}{25} \leq a \leq 1</math> 14.0</p> <p>(3) 1:3 34.2</p> <p>3 袋Aを買うほうが割安である。 &lt;理由&gt; (例) 大と小のチョコレートは、相似比が2:1だから、体積比は<math>2^3:1^3=8:1</math>である。したがって、袋Aと袋Bにおける1袋のチョコレートの体積比は、<math>(8 \times 2):(1 \times 15)=16:15</math>となる。よって、同じ300円であれば、袋Aを買うほうが割安である。</p> <p>4 (1) 《選択問題》 選択率 (A) 45.3 (B) 37.4</p> <p>(A) (例) 卓球台の台数を <math>x</math> 台とする。 58.7</p> <p>式 <math>3+4(x-1)+8=6+5(x-1)</math></p> <p>(B) (例) 卓球台の台数を <math>x</math> 台、5月の卓球部員の人数を <math>y</math> 人とする。 40.6</p> <p>式 <math>\begin{cases} 3+4(x-1)=y-8 \\ 6+5(x-1)=y \end{cases}</math></p> <p>(2) 卓球台の台数 6 (台) 5月の卓球部員の人数 31 (人) 26.3</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>100%</td> <td>33.0</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>12.3</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>9.9</td> </tr> </table>	100%	33.0	50~99%	12.3	1~49%	9.9	32	3<理由> 受検者の多様な考えを積極的に評価すること。 4(1) 受検者の多様な考えを積極的に評価すること。
100%	33.0								
50~99%	12.3								
1~49%	9.9								
3	<p>1 ア 15 52.3 イ 24 36.3</p> <p>2 (1) <math>y=-\frac{3}{5}x+6</math> 28.9 (野球場)</p> <p>(2) 12 (時) 6 (分) 48.8</p> <p>3 (1) (グラフは右に示す。) 30.4</p> <p>(2) 追いこされる回数 2 (回) 34.2 出会う回数 4 (回) 31.6</p> <p>4 <math>\frac{21}{5}</math> (km) 1.8</p>	20							
4	<p>1 辺AD, 辺AE, 辺DF, 辺EF 87.7</p> <p>2 (1) <math>4\sqrt{7}</math> (cm) 20.2</p> <p>(2) &lt;証明&gt; (例) <math>\triangle ABG</math>と<math>\triangle DFG</math>において 正八面体のすべての面は正三角形だから AB=DF ..... ① <math>\angle ABG = 60^\circ + 60^\circ = 120^\circ</math> ..... ② <math>\angle DFG = 60^\circ + 60^\circ = 120^\circ</math> ..... ③ ②, ③より, <math>\angle ABG = \angle DFG</math> ..... ④ よって, 錯角が等しいので AE // CD AE // CDで, 錯角は等しいから <math>\angle BAG = \angle FDG</math> ..... ⑤ ①, ④, ⑤より, 1辺とその両端の角がそれぞれ等しいので <math>\triangle ABG \cong \triangle DFG</math> よって, BG=FG</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>100%</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>24.0</td> </tr> </table>	100%	5.6	50~99%	9.4	1~49%	24.0	16	
100%	5.6								
50~99%	9.4								
1~49%	24.0								
		合計 100							

[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 理 科

## 1 結果の考察

①、②は、生物領域から出題した。①は、血液に関する動物の体のつくりと働きについて、②は、遺伝の規則性と遺伝子の働きについて、総合的な知識・理解などをみることを主なねらいとした。ともに基本的な内容を問う出題についてはおおむね良好な結果であり、日ごろの学習の成果が表れている。科学的な概念を用いて思考したり、説明したりするなどの学習活動を大切にしたい。

③、④は、地学領域から出題した。実際に見られた自然の現象を題材として、天気の変化や太陽系についての知識・理解や、科学的な思考力などをみることを主なねらいとした。気象要素のグラフを読み取ることや、天体の位置関係を図示することなど、実際の現象と関連付けて指導していきたい。また、④の間4をはじめ、記述式の解答において、比較の対象が明確でない解答が多いという指摘が高等学校から寄せられている。比較したり、条件に目を向けたりするなどの能力をさらに伸ばす指導を大切にしたい。

⑤は、化学領域から出題した。温泉水を用いた実験を題材にし、化学変化と物質の質量、酸・アルカリとイオンについて、幅広く知識・理解などをみることをねらいとした。イオンの数の変化を考察する際に、イオンのモデルを用いて説明するなど、目に見えない粒子をイメージしやすいよう学習活動を工夫したい。学習指導要領の改訂で示された、実社会・実生活との関連を重視する内容にかかわって、問5で取り上げた中和剤のような日常生活や社会と関連した例を取り上げたい。その学習活動の中で、自然の事物・現象を調べ事実を確認し、それを表現することでよりよく理解できるようにしたい。

⑥、⑦は、物理領域から出題した。⑥は、磁界と、磁界の中で電流が受ける力について調べる実験を題材に、電流と磁界についての基本的な事項をみることをねらいとした。また、⑦は、水中で物体に働く浮力について調べる実験を題材として、測定値のグラフ化の技能やグラフから規則性を見だし、浮力の大きさを求める科学的思考などをみることをねらいとした。⑥の電流の向きと力の向きを問う出題については良好な結果であった。しかし、問1の磁界の中に置いた方位磁針の向きに関して正答率が50%を下回った。小学校理科との接続にも十分に配慮したい。⑦の間1は、正答率が90%を上回り、日ごろの学習の成果が表れ、良好である。しかし、フックの法則と浮力とを関連付けてとらえる問2と問3は正答率が低い。表やグラフを作成し活用するなどの学習活動を大切にしたい。

## 2 今後の課題（授業改善のポイント）

### (1) 科学的な思考力、表現力を育成する学習活動の推進を

自然の事物・現象から問題を見だし、目的意識をもって観察・実験を行わせたい。また、観察・実験の結果を整理し、考察し、表現する学習を意図的に取り入れ、科学的な思考力、表現力を育成したい。その際、考えたり説明したりするため使用する言語、表やグラフの作成、モデルの活用について、十分留意して指導したい。

### (2) 問題解決の能力を育てる指導計画の工夫を

学習指導要領の趣旨を反映した年間指導計画を充実させたい。小学校、中学校、高等学校の学習内容等の系統性を踏まえ、生徒が自然の事物・現象について、日常生活や社会とのかかわりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、「分かった・できた」と思える学習活動が展開できる単元構成となるように工夫したい。

問	正答	配点	備考
1	問1 ア 77.8	25	問3 どちらかが「血小板」でもよい。
	問2 a レボルバー 記号 エ a 49.4 記号 78.1		
	問3 白血球, 血しょう 94.2		
	問4 (例) 酸素の多いところでは酸素と結合し, 酸素の少ないところでは酸素をはなす性質。 67.8		
	問5 (1) d (記号) X (名称) 右心室 d 36.0 e (記号) Z (名称) 左心房 e 35.7 (2) (例) 肝臓でアンモニアを尿素に変えて, じん臓で尿素をこし出し排出する。 72.2		
2	問1 柱頭 78.1	25	問2 すべてできて正答とする。順序は問わない。  問4 受検者の多様な考えを積極的に評価すること。
	問2 オ, カ 26.3		
	問3 (1) ② RR ③ Rr ② 83.9 ③ 85.1 (2) (丸い種子:しわのある種子=) 1:1 38.6		
	問4 (例) 害虫に強い形質の遺伝子を導入し, 被害にあいにくい農作物をつくる。 63.5		
3	問1 イ 46.5	25	問3 「フィリピンの沖合」などでもよい。 問4 (1) 「急に風向きが変わったから。」などでもよい。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p> <p>選択率 17.0</p> <p>正答率 83.9</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p> <p>選択率 12.3</p> <p>正答率 8.1</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>③</p> <p>選択率 70.2</p> <p>正答率 83.9</p> </div> </div>
	問2 ウ 67.5		
	問3 熱帯の海上 24.9		
	問4 (1) (例) 気温が急に下がったから。急に強い雨が降り始めたから。 80.4 (2) 積乱雲 85.4		
	問5 《選択問題》 ① (例) 地下のマグマを熱源として, 利用することが可能な地域。 ② (例) 農業用水路など, 安定した水流がある地域。 ③ (例) 年間を通じて, 強い風がふく日が多い地域。		
4	問1 コロナ 66.4	25	問2 図4 26.6 図5 33.0 問3 (例) 5月21日は新月であったが, しだいに満ちて, 6月4日には満月となった。 44.2 問4 (例) 月は金星より地球に近いから。 71.3
	問2 (備考欄に示す。)		
	問3		
	問4		
5	問1 C 81.9	25	問3 (2) a, b 順序は問わない。  問4 (1) 「保護眼鏡」などでもよい。  <div style="display: flex; justify-content: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>問1 グラフ</p> </div> </div>
	問2 硫化水素 29.8		
	問3 (1) 質量保存の法則 93.3 (2) a H <sub>2</sub> O 59.4 b CO <sub>2</sub> 66.7 c (例) 発生した二酸化炭素が容器の外に出た。 47.4		
	問4 (1) 安全めがね 76.0 (2) ア 74.9 (3) イ 53.2		
	問5 (例) 農作物が成長しやすくなり, 収量が増える。 41.2		
6	問1 ウ 48.0	25	問2 (1) エ 78.4 (2) d (例) 磁石Aの極が上下逆になるようにかえる d 53.5 e (例) 手回し発電機をより速く回転させる e 58.2
	問2		
7	問1 (備考欄に示す。)	25	問3 すべてできて正答とする。順序は問わない。
	問2 (1) 0.3 (N) 22.8 (2) ウ 30.4 (3) (例) 水圧による, おもりの上面を下向きに押す力よりも, おもりの下面を上向きに押す力の方が大きいから。 38.3		
	問3 B, C, D 5.8		
		合計 100	

[注意] 1 各小問の配点については, 各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については, 各学校の判断によるものとする。

# 英語

## 1 結果の考察

①は、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る力、聞き取った英語を書き取る力をみることをねらいとした。リスニング・テストを10分に変更したのは、4技能をよりバランスよくみるためである。具体的な内容を聞き取る力をみる問題の多くは、正答率が8割以上で、基本的な「聞くこと」の指導が十分行われていることを示している。一方、2-Iのように聞き取った内容を言い換えて答える問題や、3のようにまとまりのある英語の概要や要点を聞き取る力の育成が、今後の課題である。

②は、基本的な言語材料に関する知識を適切に活用する力、対話の流れを正しくとらえる力、対話内容に合った正しい英文を構成する力をみることを主なねらいとした。1は、単語を場面に応じて適切に活用する力をみる問題である。正答に至るには、文構造を正しく理解し、基本的な品詞の違いを判断する力も求められた。1(2)のbuildingの正答率は2割に満たなかった。3では、関係代名詞whoを使った表現が予想以上に少なかった。間接疑問文と間違えてwhoを使っていたという、高等学校からの指摘が多かった。

③、④は、データを参照しながら大切な部分やまとまりのある内容を理解する力、文章の流れを正しく理解して登場人物の考えや心情を的確にとらえる力、英語の問いに英語で的確に答える力をみることをねらいとした。③の2のように、日本語で説明する問題は、正答率が3割にとどまった。英語の表現力だけでなく、日本語の表現力を高めることも重要である。④の2のように部分的な情報を正確に理解し、6のように英文の展開を大まかに把握するなど、読み取りの目的に応じて読み方を変える必要がある。7は、「読むこと」「書くこと」「話すこと」を統合した問題である。文脈を正しくとらえ、登場人物の視点に立った表現が求められている。正答率が5割未満であるが、今後、技能を統合した言語活動が増え、改善されることを期待したい。

⑤は、与えられた場面に応じて、自分の伝えたいことを積極的に英語で書いて表現する力をみることを主なねらいとした。また、基本的な単語の活用力をみるため、助動詞canやwillの使用を条件に加えた。無選択率は、例年よりも低く1割未満に減少したことは評価できるが、文と文のつながりなどに注意して文章を書くなど、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力がさらに求められる。

## 2 今後の課題（授業改善のポイント）

### (1) 思考力・判断力・表現力等を引き出す授業の展開を

思考力・判断力・表現力等を引き出すために、授業においてどの活動でどんな力を求めるのか、またどのタイミングでその活動を行うのか、事前に明確化しておくことが必要である。その際に、生徒の理解力と表現力を一体化してみるような言語活動が、一層重要となっている。

### (2) 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を高める指導を

「聞くこと」+「書くこと」、「読むこと」+「話すこと」、「読むこと」+「書くこと」+「話すこと」のように、二つ以上の技能を組み合わせた言語活動を、積極的に授業に取り入れたい。技能の組み合わせに変化をつけることで、同じ教材を繰り返し使っても、生徒に飽きを感じさせず、言語材料の定着を高めることが必要である。

### (3) 辞書の使い方に慣れ、辞書を活用させるような言語活動を

学習指導要領の改訂に伴い、辞書の活用について「活用できるようにすること」という指導の必然性が示された。辞書の使い方に慣れさせるためには、生徒が適宜辞書を繰り返して使用し、調べたい単語を辞書を使って自由に調べるということを普段から行わせる必要がある。

問	正 答						配 点	備 考				
1	1	No.1	ウ 85.1	No.2	エ 98.2		26					
	2	ア	木 86.0	イ	6:30 48.2	ウ			飲み物 97.7			
	3	No.1	イ 72.8	No.2	ア 55.8							
	4	(And) I take him for a walk every morning (.)							75.7			
2	1	(1)	welcome 69.9	(2)	building 18.7	(3)	left 43.0	18				
	2	(1)	ア 69.6	(2)	ウ 81.6							
	3	(1) You must change trains at Tokyo (Station.)					74.9					
3	(2) (Do you) know someone who can teach me (Chinese?)						39.5	16	4 順序は問わない。			
	1	(例) サクラの木の下でパーティーをする計画をたてるとき。					83.6					
	2	(例) 美しいサクラの短い命を、自分自身の命として見ること。					33.3					
	3	W	酒田(市)	X	山形(市)	Y	米沢(市)			Z	新庄(市)	61.1
4	イ, オ		イ 66.4		オ 37.1							
4	1	エ					64.6	30	7 受検者の多様な表現を積極的に評価すること。			
	2	X	新しい命	58.2	Y	こわされて	67.3					
		Z	(例) 病気の人たちが、早く回復できる							67.0		
	3	(c)					52.3					
	4	(例) 木々の間にたて穴住居があり、山々には春らしい色がたくさん見られる様子。					39.8					
	5	(1) (例) No, they didn't.					49.4					
		(2) (例) They felt tired and hungry.					24.6					
6	エ → ウ → ア → オ → イ					39.5						
7	I (例) (If we can, I) want to go there (again.)					45.6						
	II (例) What shall we do (there next time?)					25.7						
5	《選択問題》						10	受検者の多様な表現を積極的に評価すること。				
	<p>㊤ 賛成 (例) Sleeping is important. If we don't sleep longer than seven hours, we cannot study hard. Sleeping is like good food. We feel better after a long sleep.</p> <p>反対 (例) I won't sleep longer than seven hours. I have other things to do. Studying in the morning is important to me. Also, I enjoy time to read books at night.</p> <p>㊦ 賛成 (例) We have many summer festivals. You will be excited to see them. Rivers and beaches are great, too. So summer is the best season in Yamagata.</p> <p>反対 (例) Summer in Yamagata is too hot. Winter is better than summer. You can enjoy skiing. Taking <i>onsen</i> when there is a lot of snow is wonderful.</p>											
合計 100												

(注意) 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

	選択率	正答率
A賛成	31.0	87.7
A反対	5.0	88.2
B賛成	41.8	88.8
B反対	13.7	91.5
無選択	8.5	

資料 I 平成 25 年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況  
(入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	
中学校卒業生数		11,841	12,064	11,343	11,412	10,996	
全 日 制	県 立	入学定員	8,320	8,200	8,000	7,960	7,680
		入学志願者数	8,594	8,641	7,946	8,245	7,808
		倍 率	1.03	1.05	0.99	1.04	1.02
		合格者数	7,811	7,780	7,431	7,433	7,255
		最終倍率	1.02	1.04	0.98	1.02	1.00
		充足率	93.9%	94.9%	92.9%	93.4%	94.5%
	市 立	入学定員	440	400	400	280	280
		入学志願者数	498	516	435	371	347
		倍 率	1.13	1.29	1.09	1.33	1.24
		合格者数	440	400	400	280	281
		最終倍率	1.13	1.29	1.08	1.33	1.24
		充足率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.4%
	合 計	入学定員	8,760	8,600	8,400	8,240	7,960
		入学志願者数	9,092	9,157	8,381	8,616	8,155
		倍 率	1.04	1.06	1.00	1.05	1.02
		合格者数	8,251	8,180	7,831	7,713	7,536
		最終倍率	1.03	1.05	0.99	1.03	1.01
		充足率	94.2%	95.1%	93.2%	93.6%	94.7%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者数	221	168	162	146	138	
	倍 率	0.79	0.60	0.58	0.52	0.49	
	合格者数	167	153	149	135	126	
	最終倍率	0.77	0.59	0.56	0.51	0.47	
	充足率	59.6%	54.6%	53.2%	48.2%	45.0%	
総 計	入学定員	9,040	8,880	8,680	8,520	8,240	
	入学志願者数	9,313	9,325	8,543	8,762	8,293	
	倍 率	1.03	1.05	0.98	1.03	1.01	
	合格者数	8,418	8,333	7,980	7,848	7,662	
	最終倍率	1.02	1.04	0.97	1.02	1.01	
	充足率	93.1%	93.8%	91.9%	92.1%	93.0%	

(注)

- (1) 倍率＝入学志願者数÷入学定員 最終倍率＝受検者数÷入学定員
- (2) 充足率＝合格者数÷入学定員×100
- (3) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年の生徒数による。

## 2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者数		合格者数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	4,120	▲320	4,241	1.03	3,939	95.6%	
	専門教育を主とする学科	理数	120	0	128	1.07	121	100.8%
		音楽	40	0	21	0.53	21	52.5%
		体育	80	0	83	1.04	81	101.3%
		農業	440	▲80	414	0.94	394	89.5%
		工業	1,360	▲80	1,299	0.96	1,256	92.4%
		商業	640	0	696	1.09	635	99.2%
		水産	80	0	57	0.71	57	71.3%
		家庭	80	0	91	1.14	80	100.0%
		看護	40	0	51	1.28	40	100.0%
		情報	40	0	42	1.05	40	100.0%
	総合学科	920	200	931	1.01	872	94.8%	
	合計	7,960	▲280	8,054	1.01	7,536	94.7%	
定 時 制	普通	200	0	112	0.56	107	53.5%	
	工業	80	0	20	0.25	19	23.8%	
	合計	280	0	132	0.47	126	45.0%	
全定合計		8,240	▲280	8,186	0.99	7,662	93.0%	

(注)

(1) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

(2) 入学定員で280名の減は、寒河江農業校舎・寒河江工業・真室川・置賜農業飯豊分校・長井工業・鶴岡北・遊佐高等学校の各1学級(40名)減による。

※左沢・荒砥高等学校の学科改編に伴い、普通科(200名)の減、総合学科(200名)の増となる。

### 3 推薦入学者選抜実施状況（平成25年度）

区 分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専 門 教 育 を 主 と す る 学 科											総合学科
			理数	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報		
入学定員		4,120	120	40	80	440	1,360	640	80	80	40	40	920	
募集人員		約 576	約 20	16	約 56	約 156	約 482	約 206	約 32	約 28	約 14	約 14	約 248	
志願者数		578	13	20	68	47	286	186	7	28	22	6	141	
内定者数		517	12	16	61	45	280	159	7	28	16	6	130	
志願倍率		1.00	0.65	1.25	1.21	0.30	0.59	0.90	0.22	1.00	1.57	0.43	0.57	
充足率		89.8%	60.0%	100.0%	108.9%	28.8%	58.1%	77.2%	21.9%	100.0%	114.3%	42.9%	52.4%	

区 分	全 日 制
	計
入学定員	7,960
募集人員	約 1,848
志願者数	1,402
内定者数	1,277
志願倍率	0.76
充足率	69.1%

区 分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		約 18	約 16	約 34
志願者数		1	0	1
内定者数		1	0	1
志願倍率		0.06	0.00	0.03
充足率		5.6%	0.0%	2.9%

※ 定時制は、霞城学園高校、鶴岡工業高校の2校で実施  
（霞城学園高校のみ志願有り）

区 分	全 日 制 ・ 定 時 制 総 計
入学定員	8,240
募集人員	約 1,882
志願者数	1,403
内定者数	1,278
志願倍率	0.75
充足率	67.9%

#### <注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
- (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
- (3) 推薦選抜で志願者があった学校  
全 日 制：46校 90学科  
定 時 制：1校 1学科
- (4) 募集人員（実施要項より）  
普 通 科：20%以内  
理数科・音楽科：40%以内  
体 育 科：70%程度  
職業に関する学科：40%以内  
総合学科：40%以内